

(別記様式)

令和6年度 府立朱雀高等学校（定時制課程） 学校経営計画（スクールマネジメントプラン）（ 計画段階 ・ **実施段階** ）

学校経営方針（中期経営目標）	前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点（短期経営目標）
○「自ら学び」「自ら律し」「自ら鍛える」習慣や態度を養い、豊かな心を持ち、たくましく生きる人間の育成を目指す。 ○生徒の期待に応える「生徒本位」の学校づくりに教職員全員体制で取り組む。	(成果) ○進級・卒業率約90%、就職内定率100%。特別な支援を必要とする生徒に対しても丁寧な学習支援を工夫した。 ○コロナ禍が明けた中で、学校行事・生徒会活動をコロナ禍以前にも増して充実したものになるよう工夫して実施した。 ○まなび・生活アドバイザー及びスクールカウンセラーをはじめ、外部専門家や行政等との連携による生徒・家庭支援に努めた。 (課題) ○学習習慣をより定着させるための具体的な方策の研究。 ○ICTを活用した授業展開や連絡方法の更なる工夫。 ○特別な支援を必要とする生徒に対するより効果的な支援・指導の研究。	1 「わかる」授業の更なる研究をすすめ、「できるを経験できる」授業を実践し、学習意欲の向上を図り、自ら学ぶ姿勢を養う。 2 基礎学力の定着並びに進級・卒業・希望進路実現につながる資質・能力を育成する。 3 基本的、自律的な生活習慣を確立させ、健康な心と体を育むとともに、他者への思いやりの心を育み、仲間意識を醸成させる。 4 学習習慣が定着していない生徒を対象に、授業前補充を行う等、学習習慣の定着を図る取組を進める。 5 特別な支援が必要な生徒に対して、一人ひとりに合った学習支援、就労支援の更なる充実を図るとともに、悩みを抱える生徒一人ひとりに対し、多様な専門家と教育相談体制をつくり、きめ細かな対応を行う。 6 一人一台端末等、ICTを効果的に活用し、多様な生徒の学びを支える学習活動を展開するため、より効果的な授業や連絡方法の研究・実践を進める。 7 多様性教育、人権教育を基本に据え、生徒指導提要改訂の趣旨を踏まえた生徒指導、生徒支援を行う。 8 教育活動全体において、心理的安全性が高く、居心地のよい安心、安全な学校づくりを行う。

評価領域	重点目標	具体的方策	評価			成果と課題
組織・運営	◇学校経営目標の達成に向けた取組体制を確立する。	◆学校経営計画に基づき、各分掌、各教科が目標を意識した教育活動を進める。	B	B	B	○学校経営計画に基づき、昨年度の総括を踏まえた上で基本方針を明らかにし、教職員全体で共有するとともに、学校全体で計画的に教育活動を実践した。 ○昨年度後半より教職員間での情報共有をICT化し、効率よく業務運営がで
		◆学校運営協議会の評価を受け、現在の課題を明確にし、改善に努める。	B			
	◇教職員の組織体制を機能的にし、活性化させる。	◆ICTの活用による教職員間の情報共有を工夫し、共通認識のもと教育活動を展開させる。	B	B		
		◆各分掌の目標達成のため、年度の間中期と年度末に研修会等を通じて課題を確認し、取組の改善を図る。	B			

	◇各種会議を機能的・効率的に実施する体制をつくる。	◆各種会議を趣旨に応じて定期的・計画的に行い機能を充実させる。	B		きている。 ○各種会議を計画的に行うとともに、年度末には各分掌の総括会議を行い、今年度の取組と成果、次年度への課題等を教職員間で共有できた。 ○また、生徒の課題事象について、まなび・生活アドバイザーや児童相談所等公的な機関とも連携、協力しながら、情報共有するとともに、課題解決に向けた取組を進めることができた。
家庭・地域社会との連携	◇学校運営協議会等、外部の評価、意見を真摯に受け止め、さらなる学校経営の改善を図る。	◆保護者・地域との連携を強めるとともに、外部評価を取り入れる。 ◆PTA活動を充実させ、家庭との連携を強める。	B	B	○今後の学校運営の参考になるご意見を学校運営協議会でいただき、各分掌担当者とともに学校運営の改善に取り組んだ。 ○今年度のPTA活動においては、PTA役員を引き受けてくださる方が今までよりも多く、学校の教育活動にも積極的に関わっていただくなど、PTA活動の活性化につながった。 ○文化祭においては、昨年度よりPTAの模擬店が復活し、今年度においても他課程の生徒や保護者等の方々が多数来校され盛況であった。
教育課程	◇特色ある教育課程を編成する。	◆単位制の特徴を活かした創意と工夫のある教育課程を編成する。総合的な探究の時間三卒コースの教科・科目を精選する。 ◆生徒の学習意欲を高めるために選択科目の保障に努める。	B	B	B
	◇学習活動と特別活動の適正な時間を保障し、充実した学校生活を送れる行事計画を立案し実施する。	◆生徒の実態に即した適正かつ有意な行事計画の作成に努める。 ◆授業時間を確保するための方策について検討する。	B	B	
学習指導	◇個に応じた指導の充実により、基礎学力の向上を図る。	◆習熟度別授業や少人数授業を実施し、基礎学力の底上げを図る。今年度も引き続き実現できた体育や情報のS講座（成人生徒に対する講座）、1年国語の少人数講座を次年度も継続できるよう努力する。	B	B	B
					○1年次における国語での少人数講座、数学と英語における習熟度別講座編成を継続した。 ○2年次において数学と英語における

		◆学習の遅れがちな生徒に対する補充指導を定期考査ごとに実施し、かつできる限り日常的にも実施する。	B			習熟度別講座編成を継続した。 ○一学期から二学期にかけて、定期考査直前に短縮校時を設定し、テスト前補習の実施を保障した。 ○特別支援教育を補完するための補習について、今年度の1・2年次生を対象として実施した。目的の重要性を尊重し、次年度以降も取り組みを継続したい。 ○成人生徒や健康上の課題を持つ生徒に対する特別な講座設定を継続し無理の無い学校生活の保障に努めた。 ○今年度も二学期後半に公開授業週間を設定し、教員間での指導経験と方法の交流の機会を保障した。 ○図書館では教材研究・授業支援のための資料提供を行い、家庭科、国語科等の時間で図書館が利用された。また、教員の推薦図書紹介冊子「まずは一冊」や図書館便りの配布、コーナー展示を行い、読書への関心を喚起するよう努めた。 ○今年度は、1・2・3年生にタブレットが導入され、ICTを活用した授業が展開された。
		◆特別支援教育の実施に伴い、さまざまな課題を抱えた生徒に対し、学習指導のあり方等について対策を講じる。特別な支援を要すると考えられる生徒への補習を今年度も引き続き継続し、全校体制で進めていく。	B			
	◇教科の指導力の向上により、楽しくわかりやすい授業を追求する。	◆教科会議を充実させ、指導内容や指導方法についての研究協議を行う。	B			
		◆研究授業や公開授業の取組を通して、教科指導の充実を図る。	B			
		◆授業で図書館を活用するとともに、生徒の読書習慣を身につけさせる。	B			
		◆授業でのICTの活用のため、研修等を充実させるとともに、施設・設備の拡充とその活用を図る。	B			
生徒指導 特別活動	◇自主的に取り組む集団活動を通して、学校生活を豊かにするとともに他者への思いやりの心を育み、仲間意識を醸成させる中で、自己の課題に対する改善や解決に向けて主体的に取り組む態度を養う。	◆生徒会活動や学校行事等の体験活動において仲間と協力したり、一緒に課題に向き合ったりする取組を通して他者を思いやる経験や達成感を得られるよう丁寧な立案及び生徒会執行部・各種委員会への指導・助言を行う。	B	B		○ホームルーム運営会議を活用することで、各分掌からの意見を整理・調整し、丁寧な立案を行うことができた。 ○また、生徒会執行部会等においてICTを活用する等して、有意義な指導・助言を行うことができた。
	◇安心・安全な学校づくりを推進するとともに、地域に信頼される学	◆問題事象や問題行動の未然防止・早期発見・早期対応ができるよう各分掌と密に情報共有を図る。	B			○各分掌と密に連携を図ることで、問題事象等に対して、早期に対応する

	校づくりを行う。	また、事象が起きたときには組織的に対応する。				ことができた。
		◆行事等の取組について HP 等を活用して広く発信するとともに、文化祭や学校周辺の清掃活動等を通して地域の住民と関わり合う中で地域に信頼される学校づくりを行う。	B			○各行事等の活動をHPで紹介したほか、文化祭模擬店の地域の住民への公開、毎月の学校周辺の清掃活動等を通じて本校の活動を発信することができた。
進路指導	◇自分の能力・適性を正しく理解して、適切な進路を選択できるように指導する。	◆各種進路説明会を実施する。就労調査や進路希望調査・面談等で生徒の状況を把握し、きめ細かい指導に努める。また、特別な支援を必要とする生徒の進路について各分掌・担任、保護者、関係機関と連携してすすめていく。	B			○職業安定機関、若手社会人、企業経営者を講師に迎え、実践的な就職指導に努めた。また、体験学習で企業の方に来ていただくなど新しい試みも行った。
	◇勉学と就労の両立を援助する。	◆生徒の現状に合わせて就労を勧め、生活リズムを適切に整えることができるように指導する。定時制生徒に理解のある就労先を開拓する。	C			○就労調査・進路希望調査を複数回実施。進路学習、進路補習も基本的に従来通りの内容を踏襲しつつ、1～3年生についてはタブレットを活用して進路学習の記録を蓄積していけるようにした。
	◇進路希望の実現に結びつく学力を涵養する。	◆進学補習や就職補習を実施し、学力の向上に努める。	C		C	○今年度の卒業生の中には、進路選択が遅くなった生徒もいた。来年度は、進学指導等、具体的に検討する必要がある。
	◇勤労意欲を育むとともに、労働関連法の基礎を理解させる。	◆就労相談や人権学習、就職内定者説明会等をとおして、働く者の権利や義務について指導する。	C			○安易な離職防止のため、就職内定者の指導を複数回行った。
	◇早期離職の防止に力を注ぐ。	◆定期的な連絡、職場訪問を行う。企業との連携に努める。	B			○早期離職した生徒を外部機関に繋ぎ、再就職を決めることができた。
人権教育	◇さまざまな人権問題について正しく理解し、その解決に向け実践する態度を育む。	◆HR運営会議において、内容の精選などを十分に協議し地域や本校の実態を考慮した人権教育を実践する。	B			○本年度は京都市男女共同参画センターを通じ、“人間と性教育研究協議会”幹事の関口久志氏を招き『デートDVの理解と対等な関係性』というテーマで講演を聴いた。生徒たちにとっては身近であり重要な内容で、知っているつもりでも実際は知らなかったことも多く、貴重な学びとなったようである。
	◇学校生活における身近な人権に対する意識を高め、自他を尊重する豊かな感性を育む。	◆すべての教育活動をとおして、人権を尊重する心を育む。	B		B	
	◇課題を持った生徒の学習状況を把握し、すべての生徒のさまざまな	◆生徒一人ひとりの人権意識を高めることを大切にしたい教育を実践する。同時に、生徒が学校生活の主	B	B		

	課題に配慮して学習環境を整備する。	人公として、自ら学ぶ権利を自覚するとともに、相互の権利を尊重しあえるように促す。			A	B	○1年間を通して実施される、人権教育関係会議及び研修会に参加した。 ○教職員の人権研修は、三課程共通で「同和問題（部落差別）の現在」について学び、全教職員を対象とした副校長による講義と、主に若手教職員を対象としたツラッティ千本でのフィールドワークによって理解を深めた。		
		◆課題を持った生徒の学習状況を把握し、担任や教科担当と連携をとりながら学力の向上に努める。						B	
		◆教職員の研修、研究会への参加を促す。						B	
	◇学校のICT化を進めるとともに、個人情報の適切な管理を徹底する。	◆個人情報等について適切な管理を行う。			B	B			
		◆研修などを通じ ICT に関する正しい知識を習得し、実践につなげる。			B				
健康・安全 教育	◇健康で安全な生活を送れるように、生徒の実態に即した保健指導と環境衛生管理に取り組む。	◆健康診断の結果を基に保健指導を進める。 ◆安全点検を適切に実施するとともに、学校薬剤師等と連携して学習環境の改善を図る。			B	B	○今年度の健康診断受診率は100%実施ができた。今後は事後指導にも重点を置いた指導に努めたい。 ○学校薬剤師と連携し、学校環境衛生検査を計画どおりに実施することができた。 ○学期に2回「全校清掃・安全点検」を実施し、全教職員の協力により生徒たちに一生懸命取り組ませることができた。同時に安全点検表を実施した。今年度は特に改善するような箇所はなかった。 ○薬物乱用防止教室を元京都府警察本部少年課の職員の方に依頼し、生徒指導部と連携して1学期に実施することができた。 ○生徒の健康課題の実態を踏まえ、ほけんだよりやホワイトボードを活用し、健康の保持増進を促す啓発活動に取り組んだ。 ○新入生への給食説明会を行うとともに、1年を通じて給食時に喫食指導を行った。毎月給食会議を開き給食メニューの改善に努めた。1年生は、最初の20回分を全員で摂ることとした。		
	◇定時制生徒の健康課題に応じた保健学習を進める。	◆薬物乱用防止学習を1年生対象に実施の取組は、学年・教科・分掌と連携しながら進める。 ◆性感染症、性教育、依存、デートDV等、生徒の課題に応じた保健学習を計画する。			B			B	
	◇「食」に関して、望ましい食習慣の形成などについて指導を行う。	◆学校給食の場面や、保健指導をとおして食に関する取組を行う。			B				
	◇心理的精神的原因や家庭環境等で学校生活に支障をきたしている生徒について、全教職員で情報を共有し個に応じた適切な指導を行う。	◆分掌・教科間の連携を密にし、生徒の状況を正確に把握するとともに、スクールカウンセラーやまなび・生活アドバイザー、外部の関係機関と連絡をとりあって、より適切な指導を行う。			B				
	◇特別支援教育について、教職員全体の共通理解を図る。	◆他校の実践例や専門家から学びつつ、他分掌・各教科間の連携を取って適切な指導のあり方を検討し、実践を進める。			B				

					1 学期最初 30 人 (30 人中)→2 学期最後 12 人(28 人中)と減ったものの、当初の目的は達成しているようだ。 ○全教職員と連携し生徒の心身の健康状態の把握に努めた。体調不良等の生徒については担任及び保護者と連携を密に取り対応することができた。 ○スクールカウンセラー・まなび生活アドバイザー・外部の専門機関等と連携することで、具体的な支援に結びつけることができ、一定の成果がみられた。 ○特別支援教育に関して、特別支援コーディネーターとして専門家の講演に参加するとともに、地域支援センターやわたからアドバイスを頂いた。それらを参考に支援と指導を行った。
学習環境・安全管理	◇施設・設備の安全管理の徹底を図る。	◆一般施設・設備及び防災施設・設備の日常点検・定期点検を実施し、問題箇所があれば速やかに対策を講じる。	B	B	○毎月 1 回開催される衛生委員会によって、学校として改善すべき箇所を確認し、改善可能な箇所は改善された。 ○放課後に当番制で教員による教室点検を行い、安全管理につながった。 ○2 学期に防災訓練（避難訓練）を行った。今年度は消火器使用訓練を取り入れ、消防署の方からの助言、指導をいただき、生徒、教職員ともに防災の重要性を再認識できた。 ○教育活動全体において、安心、安全に学校生活を送ることができるよう、機会をみつけ、心理的安全性の高まる話を生徒たちにしてき
		◆校内巡視を随時行い、校内の安全管理に努める。	B		
	◇学校の危機管理について、日頃から教職員の意識を高める。	◆学校の危機管理マニュアルをもとに、全教職員がその内容について理解を深め、防災訓練をより充実させる。	B	B	
		◆不審者の侵入を未然に防止するため、関係諸機関との連携を図る。	B		

							た。
情報・ 文書管理	◇文書事務の適正化を図る。	◆文書起案から施行まで文書事務を適切に行う。	B	B	B	B	○適切な文書事務について、資料等も提示しながら管理職から教職員に助言等を行った。 ○各関係機関から送付される文書、情報等をTeams等を利用し、速やかに教職員に伝達し、情報共有を図るようにしてきた。 ○正しい情報モラル、倫理観を身につけ、個人情報等を適切に管理するようコンプライアンス意識を高める研修を行った。
		◆事務職員等との適切な連携の下、規定に基づいて適切に文書の整理、保管等を行う。	B				
	◇通知・通達文書等の周知と各種情報の共有化を図る。	◆通知・通達等関係機関から送られてくる文書について、関係各所にメール等も活用し、速やかに伝達。文書遅滞が起こらないようする。	B	B			
		◆校外外で得られた必要な情報を整理し、教職員に伝達、周知するとともに、理解・活用されるように努める。	B				
	◇学校のICT化を進めるとともに、個人情報の適切な管理を徹底する。	◆個人情報等について適切な管理を行う。	B	B			
		◆研修などを通じ ICT に関する正しい知識を習得し、実践につなげる。	B				

学校運営協議会による評価	本校定時制は、少人数でゆっくり学びたいという生徒にとって良い学び舎であると感じる。先生方の手厚い指導のもと、授業でわからないことを気軽に聞くことができる居心地のよい環境のもと、落ち着いて学校生活を送ることができる。また、本校定時制に通学する生徒の満足度も高く、個々に丁寧に指導いただいている印象がある。「先生が優しい」という良い評判を耳にするので、中学生を含め地域の方々にも幅広く認知してもらうことが今後重要になってくる。
--------------	---

次年度に向けた改善の方向性	さまざまな年齢、学習経験、入学動機をもった生徒が入学し、学習に対するニーズもさまざまである。生徒の多様なニーズに応えるため、一人ひとりの生徒に寄り添った丁寧できめ細かな指導が更に重要であると考え。また、本校は全日制、定時制、通信制の三課程併設の学校である。三課程すべての生徒の社会的自立を目指しながら、各課程の強み、特徴を活かした課程間での交流ができる取組にも取り組んでいきたい。
---------------	--